

1. 基本情報

事務事業名	18 今井市民センター事業				事業類型	施設運営受益者負担型				
予 算	会計	10 一般会計	款	02 総務費	項	01 総務管理費	目	01 総務管理費	予算額	13,330 千円
長期計画	章	9 みんなが参画し協働するまち		施策分野	1 市民参画・協働		基本施策	(4) 市民センター機能の多様化		
関連計画	実施計画	事業番号・事業名								
根拠法令等	青梅市市民センター条例									

2. 事業の目的

対象（誰を・何を）	目的（どういう状態にしたいのか）
全市民	福祉の増進と地域社会の振興を図るとともに、市民自らがコミュニティの醸成のため積極的に活動を展開する場に供するため、市民センター会議室、体育館の利用率向上を図る。

3. 事業の指標と単位当たりコスト

								平成30年4月1日現在人口	134,708 人
成果指標	指標の説明（考え方・算出方法）	単位	区分	年度	29 年度 A	30 年度 B	対前年度 B-A	市民1人当たりコスト(b/人口)	
会議室稼働率	年間利用回数/年間利用可能回数	%	目標			44.7	44.7		419.3 円
			実績		44.7	47.1	2.4		
			単位コスト	円	1,203,199 円	1,199,257 円	-3,942 円	市民1人当たり純行政コスト(f/人口)	
体育館稼働率	年間利用回数/年間利用可能回数	%	目標			75.9	75.9		402.4 円
			実績		75.9	74.7	-1.2		
			単位コスト	円	708,603 円	756,158 円	47,555 円		

4. 行政コスト計算書

										(単位：千円)
勘定科目	年度決算額	29 年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A	勘定科目	年度決算額	29 年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A	
経常費用	人件費	職員給与費	26,639	26,796	157	経常収益	分担金・負担金	0	0	0
		賞与等引当金繰入額	2,147	2,244	97		使用料・手数料	2,050	1,984	-66
		退職手当引当金繰入額	230	2,569	2,339		その他	320	289	-31
		その他	0	0	0		合計(a)	0	2,370	2,273
	小計	0	29,016	31,609	2,593	臨時損失(c)	0	0	0	
	業務費用	物件費	12,290	12,711	421	臨時利益(d)	0	0	0	
		維持補修費	947	853	-94	臨時損益(d-c-e)	0	0	0	
		減価償却費	11,025	11,025	0	純行政コスト(f)=(b+e)-a	0	51,413	54,212	2,799
		その他	0	0	0					
	小計	0	24,262	24,589	327					
その他の業務費用	支払利息	386	168	-218	科目	年度決算額	29 年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A	
	取得不能引当金繰入額	0	0	0	国庫支出金	0	0	0	0	
	その他	119	119	0	都支支出金	0	0	0	0	
小計	0	505	287	-218	その他	2,370	2,273	-97		
小計	0	53,783	56,485	2,702	合計	0	2,370	2,273	-97	
移転費用	補助金等	0	0	0						
	その他	0	0	0						
小計	0	0	0	0						
合計(b)	0	53,783	56,485	2,702						

(単位：%)

区 分	年度	29 年度	30 年度
有形固定資産減価償却率		59.1	60.9
受益者負担割合(a/b)		4.4	4.0

5. 人員体制

					(単位：人)
	年度	29 年度 A	30 年度 B	対前年度 B-A	
職員		2.16	2.16	-0.00	
再任用職員		2.00	2.00	0.00	
嘱託職員		0.00	0.00	0.00	
計	0.00	4.16	4.16	-0.00	

6. 行政コストの主な事項

決算額の主な内訳	経常費用	決算額の主な内訳	経常収益・臨時損益
<ul style="list-style-type: none"> <li>物件費（臨時事務賃金）1,043,460円</li> <li>物件費（光熱水費）2,648,511円 [電気、ガス、上下水道]</li> <li>物件費（土地借上料）1,397,040円 [駐車場用地]</li> <li>維持補修費（修繕料）832,734円 [女子トイレ換気扇修繕他]</li> <li>物件費（備品購入費）109,224円[ベビーキープ他]</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>使用料（市民センター） 使用回数 4,039回、人数 32,543人</li> <li>使用料（市民センター体育館） 使用回数 2,592回、人数 22,332人</li> <li>その他内訳 施設光熱費等業者負担金 60,000円 複写機等利用料 229,181円</li> </ul>	
主な増減理由	体育館に大型扇風機を配置、トイレにベビーキープを設置したことによる、備品購入費の増	主な増減理由	29年度センター使用回数3,869回（前年比+170回） 29年度体育館使用回数2,599回（前年比△7回）

7. 貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目		29 年度末 A	30 年度末 B	対前年度 B-A	勘定科目	29 年度末 A	30 年度末 B	対前年度 B-A		
資産の部	有形固定資産	事業用資産	411,620	400,594	-11,026	負債の部	固定負債	14,018	5,939	-8,079
		土地	165,501	165,501	0		地方債	18,711	18,350	-361
		建物	556,189	556,189	0		退職手当引当金	0	0	0
		減価償却累計額	-319,201	-329,995	-10,794		その他	16,257	8,080	-8,177
		その他	9,131	8,901	-230		流動負債	0	0	0
		インフラ資産	0	0	0		未払金	2,147	2,244	97
		土地	0	0	0		賞与等引当金	0	0	0
		工作物	0	0	0		その他	0	0	0
		減価償却累計額	0	0	0		合計	51,133	34,613	-16,520
		その他	0	0	0		固定資産等形成分	411,620	400,594	-11,026
	物品	1,921	900	-1,021	余剰分（不足分）	-51,133	-34,613	16,520		
	減価償却累計額	-1,921	-900	1,021	純資産の部					
	無形固定資産	0	0	0	合計	360,487	365,981	5,494		
	投資その他の資産	0	0	0	負債および純資産の部 合計	411,620	400,594	-11,026		
流動資産										
現金	0	0	0							
未収金	0	0	0							
徴収不能引当金	0	0	0							
その他	0	0	0							
合計	411,620	400,594	-11,026							

8. 貸借対照表の主な事項

勘定科目	事業用資産（土地）	勘定科目	事業用資産（建物）
決算額の主な内訳	・今井市民センター用敷地 3,677.80平方メートル	決算額の主な内訳	・今井市民センター（鉄筋コンクリート造地上2階建） 826.96平方メートル ・今井市民センター体育館（鉄骨造平屋建） 898.30平方メートル
主な増減理由	なし	主な増減理由	なし

9. 事業の評価【一次評価】

29 年度末時点の課題事項	計画的な改修は実施しているが、老朽化に伴う修繕や備品が壊れるなど突発的なことが発生するため、引き続き、計画的な修繕や備品整備が必要。	対応結果 <b>解決</b>	事業目的を達成するための30 年度事業目標【Plan】	施設利用率の向上のため、より安全で快適な施設が維持できるよう、施設の維持管理や備品整備を実施するとともに、地域コミュニティが活性化するように、事業（文化祭など）の企画を工夫し、実施していく。		
上記目標達成に向けた主な活動実績効果【Do】	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館照明修繕、2階会議室カーペット貼り替え修繕を実施し、利用者に快適な施設として利用してもらうことができた。</li> <li>市民ウォーキング（開催 1回、参加人数 134人）等を実施し、地域情報発信の推進を図ることができた。</li> <li>体育館用に大型扇風機2台を購入し、利用者の快適性と、熱中症予防対策を取ることができた。</li> <li>本館多目的トイレに備品としてベビーキープを設置し、利用者の利便性の向上を図ることができた。（備品費 66,960円）</li> </ul>					
事業評価【Check】			総合評価【Check】			
【効率性】事業の進め方	B（良い）	【経済性】予算の使い方	B（良い）	【有効性】施策達成に対し	B（良い）	達成
評価結果から明らかになった課題事項【Check】	安全、快適にしようとするための計画的な改修、修繕を実施していくこと。 ・老朽化に伴う施設の維持補修 ・自主事業の企画立案		今後の取組【Action】	引き続き施設利用率の向上のため、より安全で快適な施設が維持できるよう、施設の維持管理や備品整備を実施するとともに、地域コミュニティが活性化するように、事業（文化祭など）の企画を工夫し、実施していく。		今後の方向性【Action】 <b>改善</b>

※A 非常に良い＝改善の余地なし、B 良い＝必要に応じて改善、C 悪い＝改善または廃止を検討

10. 行財政改革推進本部評価【二次評価】（対象事業のみ）

評価	他の市民センターと比較し、会議室の稼働率が低い状況となっている。また、前年度稼働率と比較すると、会議室の稼働率は上昇したものの、体育館の稼働率は下がっている状況である。 会議室の稼働率上昇については、平成30年度において施設運営方法の改善を図ったことにより一定の効果があったと考えるものの、体育館稼働率の低下については、その理由について昨年度の取組を含めて検証するとともに、地域住民に対し利用機会の掘り起しや、既存事業の開催等において工夫するほか、本市民センターは、他の市民センターと比べ新しい施設であることから、その利点を生かしたPRを図るなど、稼働率を上げる工夫に努める必要がある。 また、突発的な改修・修繕の発生を抑制するよう、日常的に施設・備品等の点検を実施するほか、他の市民センターとともに、計画的に修繕等を行い、経常費用の抑制に努めつつ、施設の魅力づくりを行う必要がある。
----	--